

Learning from each other!

医学情報サービス研究大会をより充実させるために

1. “Learning from each other!” に込められた思いとは

生命科学系の情報専門家として仕事をしていくためには、必要な知識とスキルを学びあうだけでなく、大きく変化する社会状況のなかで、専門職としての役割を再定義していく努力が求められる。医学情報サービス研究大会は、その努力の成果を試すひとつの場といえる。なぜなら医学情報サービス研究大会の特徴は、年齢、所属機関、性、地域、肩書きなどの違いをこえ、学びあうことに熱意を持ち、率直に交流し、問題解決の方法を求め、そして職業人としての向上を目指す人々が集う点にあるからである。つまり、医学情報サービス研究大会が掲げる ”Learning from each other!” には、「参加者の所属機関・肩書きを意識しない」、「学びあう」、「自覚的に参加する」という思いが込められている。

医学情報サービス研究大会には、毎回参加する人、久しぶりに参加する人、初めて参加する人、発表する人、発表を聞きたい人等、様々な人がいるが、”Learning from each other!” に込められた思いを理解していただければ、たとえひとりで参加したとしても、医学情報サービス研究大会で有意義で心地よい時間を共有することができる。

2. 参加の目的

医学情報サービス研究大会とは、その名の通り、研究発表の場である。したがって医学情報サービス研究大会に参加する目的は、研究発表をすることであり、研究発表を聞くこととなる。

この参加目的を達成させ、より充実感を味わうために、発表者、聴衆、モデレーターに以下のことを提案したい。

3. 発表者

発表は自分の研究成果を問う場所である。ひとりでも多くの聴衆に自分の研究を理解してもらえよう、発表の仕方を工夫しよう。

3.1. 発表に際して

(1) 発表の内容

- ・既発表の内容でも許容できるが、大会参加者に興味ある視点から発表しよう。

- ・ 持論を展開するだけでなく、データや文献等で裏付けを得て、より客観的な分析・考察をしよう。
 - ・ 宣伝的な内容に終始しないようにしよう。
- (2) 発表の形式
- ・ 医学情報サービス研究大会の発表では、“口頭発表”と“ポスター発表”が設けられることが多い。それぞれにメリットがあり、向いている形式を選択する。

3.2. 口頭発表

- (1) 研究の目的と結論を明確にしよう。
- ・ 研究の目的と結論を分かりやすく伝えるために、発表を組み立てよう。
- (2) 研究の目的と結論に沿った説明をしよう。
- ・ 発表では、調べたことのすべてを説明する必要はない。研究目的と結論を理解してもらうため、必要なことのみを端的に説明しよう。
 - ・ 問題の背景や先行研究を丁寧に説明すると、どうしても長くなりがちである。時間配分を考えて、勇気をもって割愛することも大切である。
- (3) 発表時間を守ろう。
- ・ 発表時間は必ず発表要領で確認して、時間内に収まるように構成しよう。
 - ・ ベルが1回鳴ったら：まとめに入る。
 - ・ ベルが2回鳴ったら：いったん終了して、モデレーターの指示に従う。
 - ・ 発表終了後に質疑応答。

<口頭発表のコツ>

準備

- ・ 発表要領で、用意されるパソコン環境とインターネットの有無を確認しておこう。
- ・ スライドは、シンプルな画面構成を心がけよう。目的から結論に至るまで、分かりやすい文脈を考えよう。
- ・ アニメーションはなくてもよい。使う場合は発表で効果的になるようにしよう。
- ・ リハーサルをして、スライドを見て条件反射で説明ができるようになろう。声を出すことも大事。同僚・家族などに聞いてもらおう。

発表

- ・ 緊張・不安は誰にでもある。少なくとも医学情報サービス研究大会では、怖れる必要はない。
- ・ 原稿を用意して、読み上げても構わない。
- ・ 発表姿勢がよいと、発表の印象もよくなる。

- ・時間内に 2、3 回会場を見渡して、聴衆の反応に目をやるとよい。

質疑応答

- ・質問にはシンプルに答えよう。分からないことを無理に答える必要はない。
- ・学術研究の世界では、クリティカル・シンキング（批判的思考）が一般的である。そのため、発表に対して批判的な質問をされることもある。それはあなた個人を批判しているのではないので、質問に対し真摯に回答しよう。
- ・質問を怖れない。感謝する気持ちで答えよう。

発表をより充実させるため

- ・発表内容を論文にしてみよう。
- ・発表は経験こそが上達の極意。ぜひ継続しよう。

3.3. ポスター発表

(1) ポスターで、発表内容を自由に表現しよう。

- ・発表で伝えたい、研究の目的と結論を明確にしよう。
- ・口演発表と同様に、すべてのことは伝えられない。研究の目的と結論を分かりやすく伝えるため、内容とデザインを検討しよう。

(2) 決められた大きさを守ろう。

- ・所定のパネル内に収まるように工夫しよう。

(3) 説明を明解・明確にしよう。

- ・文字を減らしてできるだけ図示して、短時間で理解してもらえる工夫をしよう。
- ・ポスターは“ぱっと見”の印象が大切。参加者に足をとめていただき、読んでもらえる構成を心がけよう。

<ポスター発表のコツ>

準備

- ・大判印刷ポスターでも、コピー用紙を複数枚貼る構成でも、どちらでも構わない。
- ・事前に完成させたポスターを持ち込むため、万が一に備えてバックアップを考えよう。（USB でデータを持参、Web mail にファイルを投稿等）修正液・サインペン・色鉛筆等があると、軽微な修正ができる
- ・発表に必要なパネルや画鋏は、実行委員会が用意する。指定された場所・時間内に、所定の場所に掲出しよう。

発表

- ・“ポスター発表ダイジェスト”という、口頭発表の時間が設けられることがある。
- ・限られた短い時間では、すべてを説明することはできない。ポスターを見に来てもらう呼びかけに徹しよう。

質疑応答

- ・“発表者待機時間”が設定されていれば、決められた時間にポスター前に立とう。
- ・口頭発表と異なり、一対一で納得のいくまで話し合える利点がある。
- ・興味のある方だけが質疑応答に来るので、気負わず挨拶や声がけをしよう。できれば名刺交換も。質問を怖れず感謝する気持ちで、ポスターを見ながら納得いくまで議論しよう。
- ・同じ質問が繰り返される場合、根本的な問題か、単なる説明不足かもしれない。分からないことは、逆に質問してみよう。教わることは恥ずかしいことではない。

発表をより充実させるため

- ・発表内容を論文にしてみよう。
- ・ポスターで言いたかったことを、文章にして説明しよう。

4. 聴衆

質問は、発表に対する理解を深めるために行います。発表者、そして自分以外の聴衆にも分かりやすい質問を心がけよう。

(1) まずは名乗ろう。

- ・挙手して、モデレーターから指名されたら、所属先と氏名を名乗ろう。

(2) 質問は明確にしよう。

- ・質問かコメントかを最初に述べて、1回にひとつだけにしよう。
- ・質問の前に持論を展開することはせず、聞きたいことを明確に述べよう。
- ・モデレーターの指示に従って質問しよう。

(3) 興味を持ったら、質疑応答の時間以外にも、発表者に質問してみよう。

- ・休憩時間や懇親会なども、質問のチャンスとして活かそう。

5. モデレーター・タイムキーパー

モデレーターが発表者・質問者の発言を指揮することにより、発表のクオリティも変わる。発表者・質問者が独断に走らないよう、上手にコントロールしよう。

(1) セッションを把握しよう。

- ・大会抄録でセッションのテーマ、発表者名のヨミと所属、演題内容を確認しよう。
- ・セッション発表者が緊張しているか、問題を抱えているか、事前の打ち合わせを通して把握しておこう。

(2) 発表の時間を守ろう。

- ・セッションに設定された時間を把握しよう。
- ・タイムキーパーは、規定された時間どおりにベルを鳴らそう。ただし、規定時間内に発表が終了した場合は鳴らさない。

- ・ 時間内に終わらない場合は、モデレーターが一度制止して、対応を指示しよう。
 - ・ すぐ終わりそうなら、多少の延長を認める。
 - ・ 終わりそうにないなら、いったん止めてもらい、継続・終了を指示する。
- (3) 質問の交通整理をしよう。
- ・ 質問、回答はモデレーターの指示のもとで行うようにしよう。
 - ・ 聴衆を無視しない（発表者と質問者で勝手に盛り上がらない）ようにしよう。
 - ・ 質問者の発言が長い場合や内容の要領を得ない場合は、質問者に注意しよう。
 - ・ 質問や回答が脱線しないよう制御して、分かりにくい場合は要約しよう。
- (4) 質疑応答を活発にしよう。
- ・ 質問が出なかった場合、可能であれば、モデレーターから質問しよう。

6. 参考文献

- ・ 黒木登志夫. 知的文章とプレゼンテーション (中公新書 2109) .東京：中央公論新社；2011.
- ・ 堀口安彦. 発表が楽しくなる！ 研究者の劇的プレゼン術：見てくれスライド論&よってらっしゃいポスター論と聴衆の心をつかむ講演技術.東京：羊土社；2013.
- ・ 渡部欣忍. あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ！：シンプルに伝える魔法のテクニック.東京：南江堂；2014.
- ・ 今泉美佳. ポスター発表はチャンスの宝庫！：一歩進んだ発表のための計画・準備から当日のプレゼンまで. 東京：羊土社；2003.
- ・ 宮野公樹. 学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術：ポスター発表を成功に導くプレゼン手法.東京：化学同人；2011.
- ・ Thomas A. Lang. 宮崎貴久子；中山健夫訳. トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド. 東京：シナジー；2012.
- ・ MIS31 名古屋大会実行委員会 「QOL” for MIS31 ～学びの質を高めるために～」 [internet] . http://mis.umin.jp/31/pdf/MIS31QOL_20140224.pdf, <http://www.slideshare.net/satomikojima750/mis31-qol-20140224-34934408> [accessed 2022-06-04]

2023年4月

医学情報サービス研究会幹事会